

瓜生氏

日本國畫

五畿内

一

特31

441

大日本教育會圖書館

六	二
八	一
册	函
號	架

共
八
本
七

022750-001-4

特31-441

日本国尽

瓜生 三寅 / 著

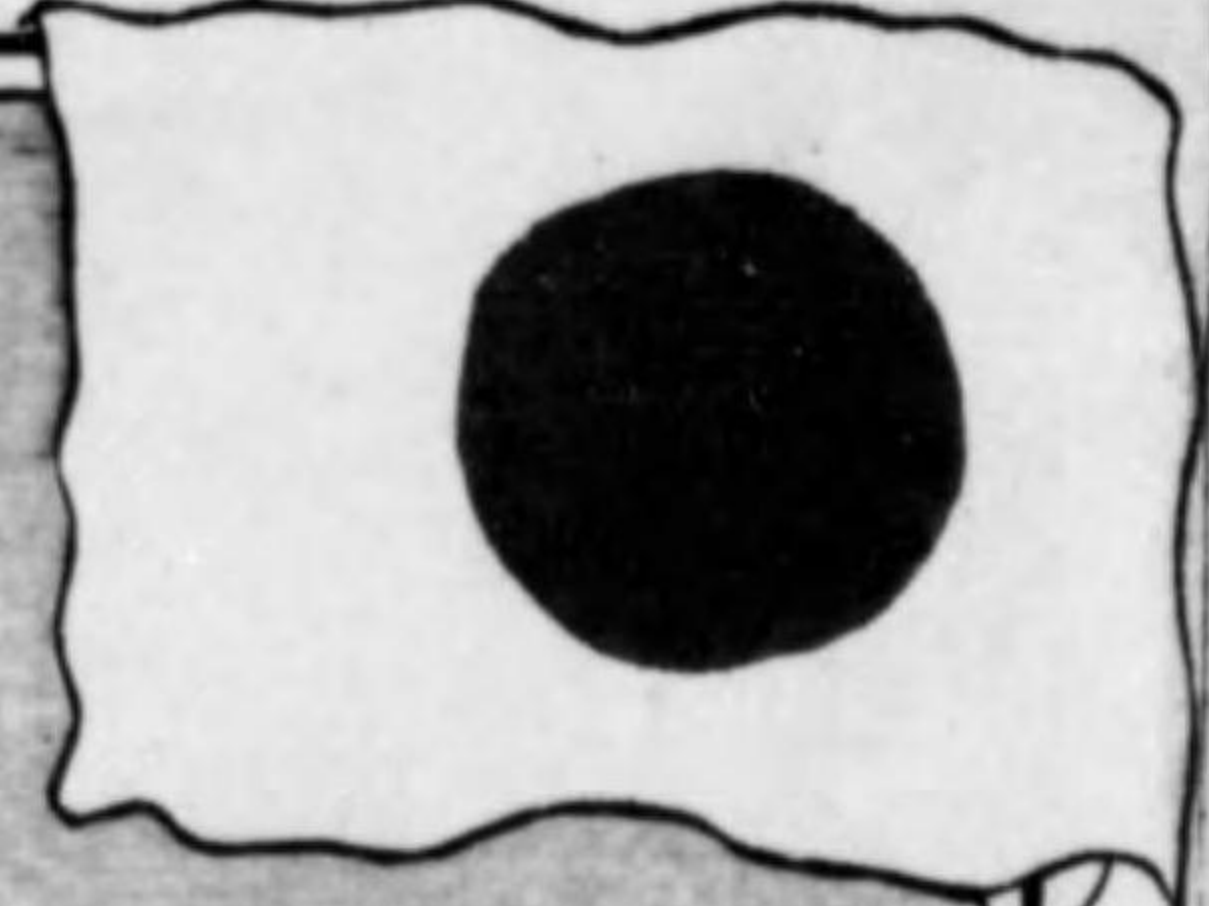
M5

ADB-0539



瓜生氏

日本國誌



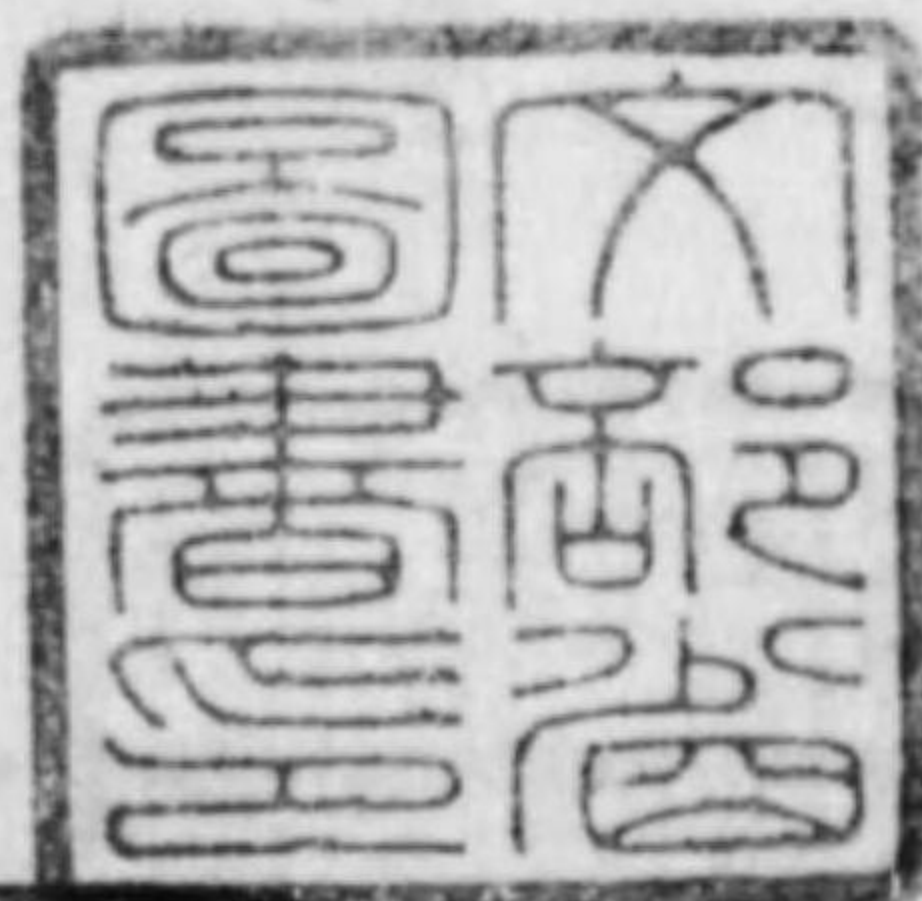
明治五壬申
十月初冬

知彼知己齋藏



特31

441



瓜生先生



ま〜〜〜の〜〜〜

各々方々を以て盛んとすは勤學を志すべし
而して自ら交遊しんば其益を以て
小學の教大なり再け各々方々於て
略そ其法を以て其所ある趣を以て
其の如く見角實地を道守りて其書
籍を以て之を以て遺憾を存し依
合多し之あるを以て只管彼を以て

し——我を後——いた——おまの若
の——おまの若——是は聖人民を教ゆる
能はるべき之ある者か其の官
を文部少府——専ら學制を儀
定——其事なきに實——之を望視
する小悲ひ——さび由——有志の人
を——おまの若——必を辨を費——何
卒能はるべきを——用ひて訓蒙實地

能文を著述——其の切——お勤
め——其の著——務の余暇を求めん
寐食の時を短——力めて筆を
起——筆をた——道——必記か
た——おまの若——世——人——か
之——おまの若——由——今——福山学
校本の皇國地理——文を本
と——著——風——人——記名——誌

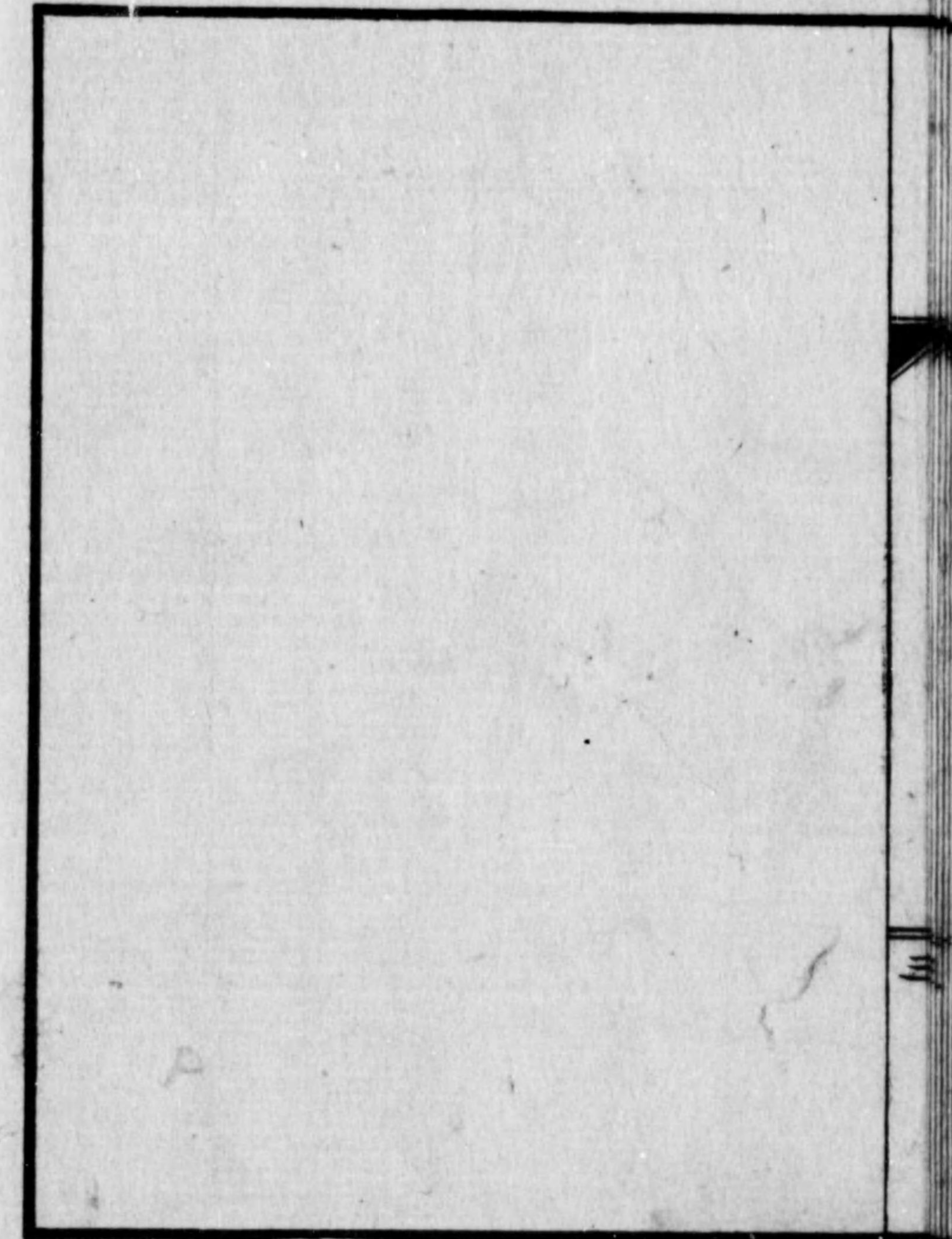
亦といふ形を以て合さるる日本全國
の地理概略を記し日本主要な表題
として各方の漢字を以てするべき一冊
能くあつても此板本所より付出版
したる一冊各方より出たる地理
を以てするべき我が日本の地理
を以てするべき之を以てして次を以て福
澤氏が世界地圖畫を以てするべき

つて我を以てする彼を以てする
能く誤るなく全世界地理乃概
略を知るなり於て是れ是れ
しるべき地理乃其のしるべき
之を以てするなり也

瓜生の手紙より

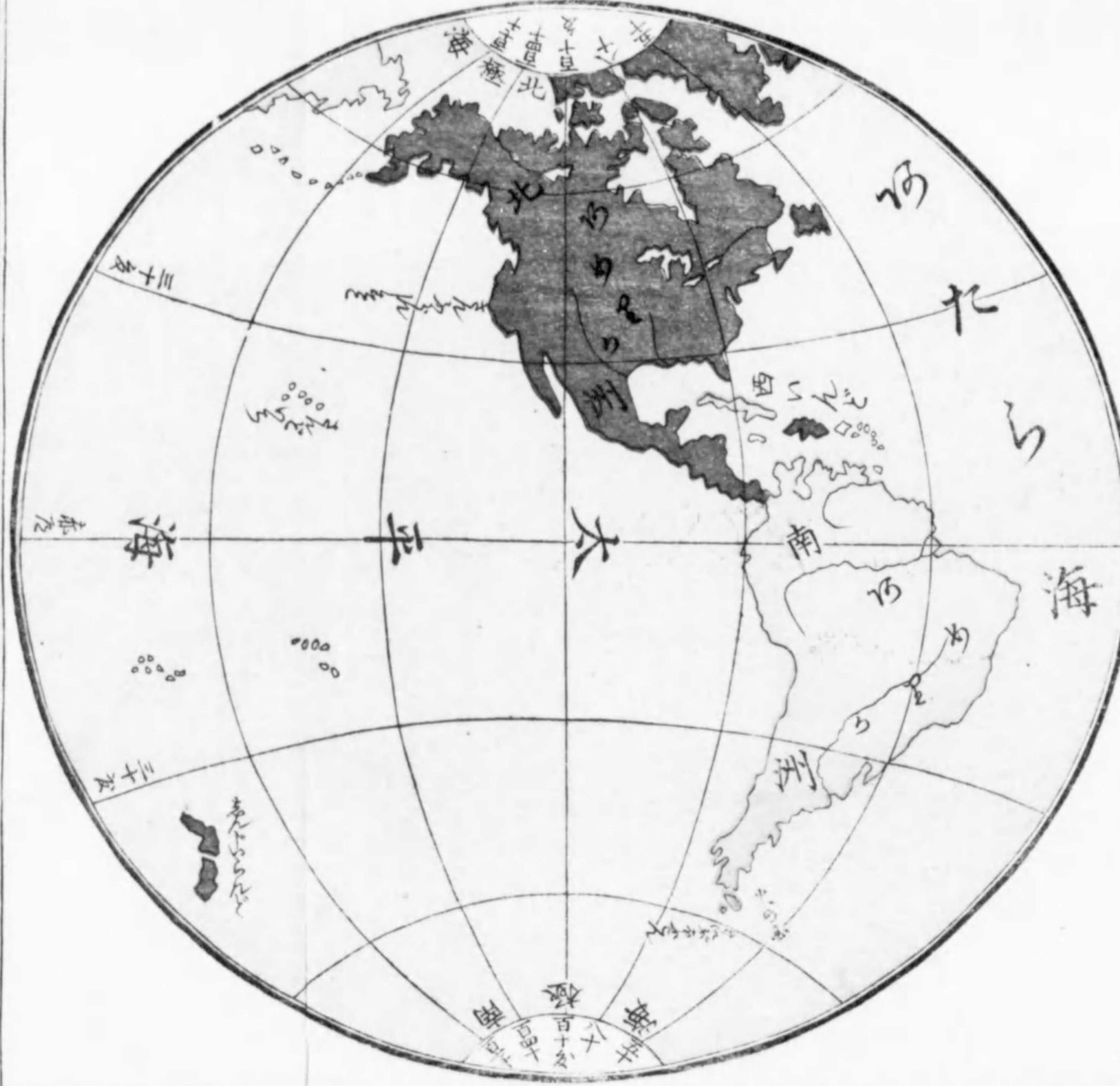
子供の手紙

各地方



西の半世界の界

東の半世界の界



蘭語彙編



瓜生氏日本國盡卷一

總論

凡そ此地面に上りある物
能く中々揚きて空を人は
るるるるるるるる其
きる海を越え地面の上

日本國地圖

小あゝり明ら。地面乃乎紙
 刻さるる。最え前しこと
 持のし。夫是地。形如圓
 一。恰と橙の二尖のしこと之
 尔因之。地は体。を名あしと
 地球。申さる。其橙の二尖

乃形。底。頭。小。産。ある。し。其。總
 面。高。但。何。之。を。地球
 破。之。なる。も。産。を。南。極。北。極
 之。北。と。南。の。端。なる。も。其。總。面
 の。高。但。の。高。記。を。山。陸
 但。を。海。と。河。の。水。陸。を。水

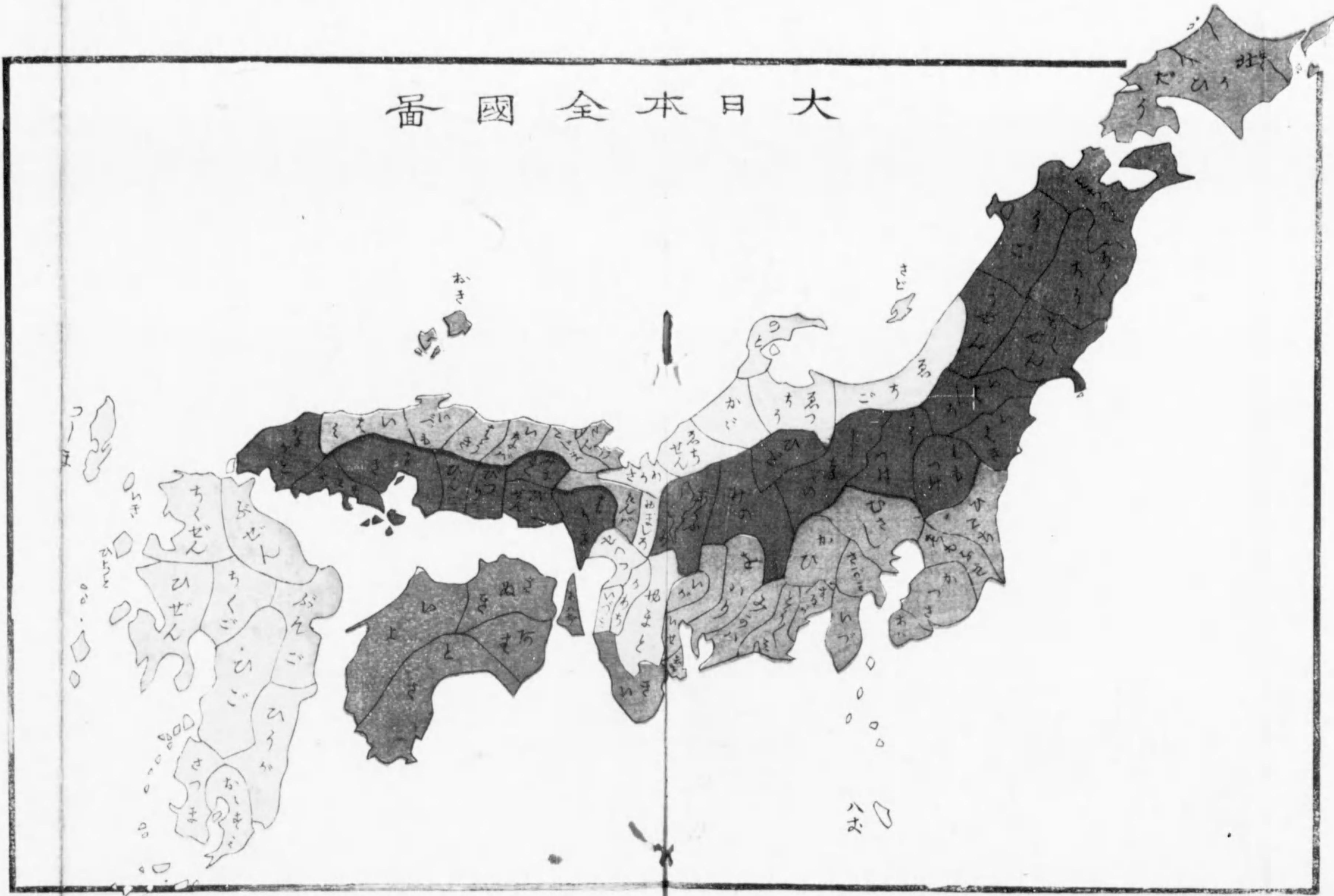
大日本水の三分一
 内小國の數おほく林の如く
 了るる並ぶ中國を二集
 し其を二分し區別し之
 亞細亞弗利加歐羅巴南
 水亞墨利加大洋海名あり

大目

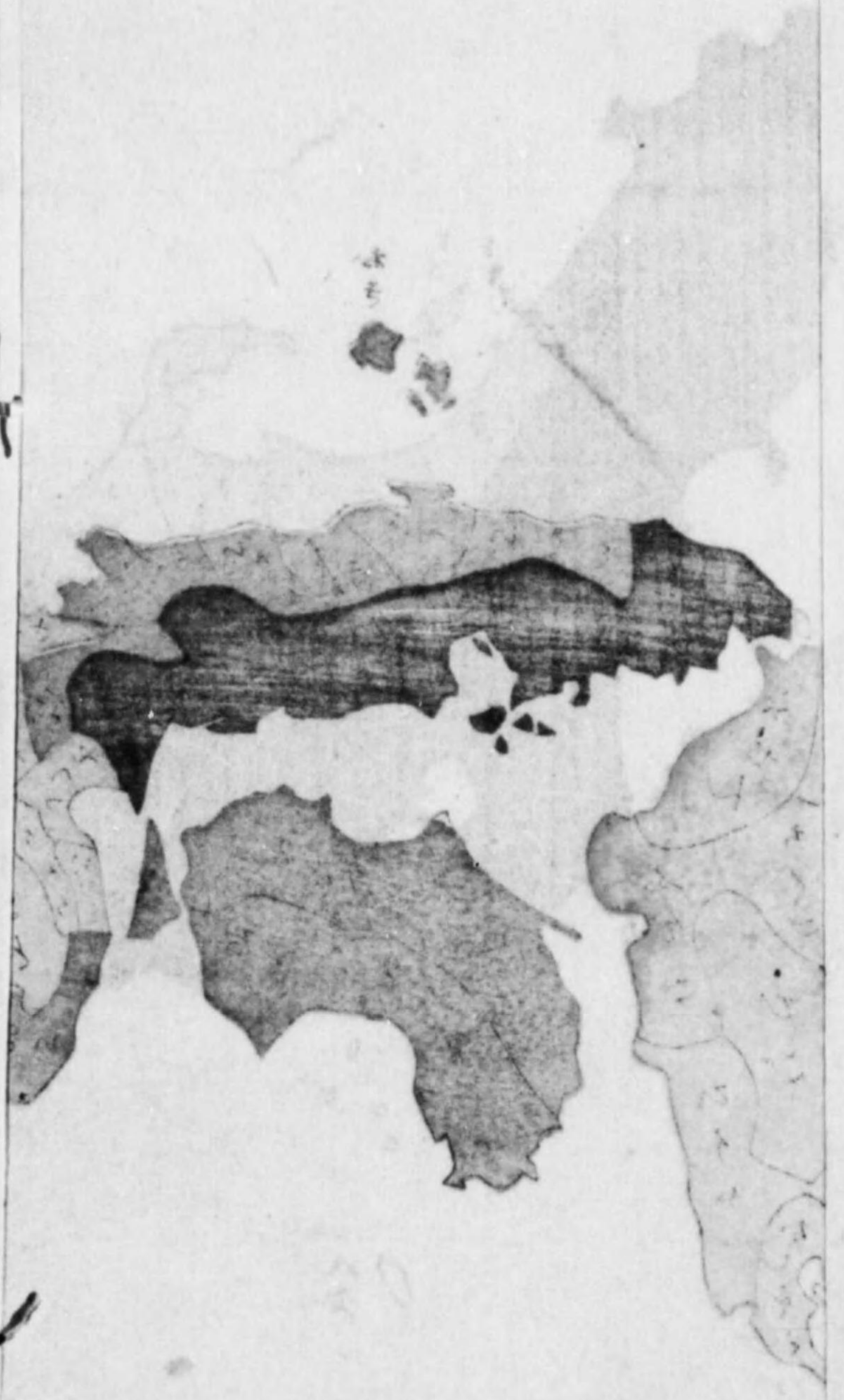


八五

大日本全圖



全四番



五大洲より其一二を知らん
 ふる。出づ生きたる本國乃。
 家日此年にお習ふべし。
 世界もさるる萬國をさるる
 中しん輝きたる其名を以て
 しる日の本に亞細亞の中

日本國神皇正統記

東隅太平洋の如し。物々
立つる一帝國。四方海より
衣用と西より軟解満ありと。
日本海とお隔る。水も魯西
亞とお接し。國内一律の縁
あり。亞細亞利如洲より縁を

引き中よ火あらしまた海し。
土地の象々々々の字。於幅狭
くして堅立長く。一里四方で敷
ふまむ。其坪二萬三千と。二百
八十六余あり。其人口の太肉の
三千二百十萬。氣候温和

地味ん紀え五穀射産豊り
少そ人の守智も他り優き
学校乃数年お増し開化
え日なり色もけき陸小
統乃傳に探水少そ家元
火輪船東洋一の國持ちし

徳(中)國の強稱大八嶋又
豊草原乃水種(國)も言
つる。の。
神武天皇以来を長く大和
赤都を以て國をヤマト
おしん。又曰「モト」もえ思ふ

よ。樂。倭國。又。日本。の。文字。
 を。用。ひ。て。音。讀。ま。古。來。六。
 十。州。あ。て。五。畿。七。道。と。三。
 名。あ。り。分。け。海。外。を。考。へ。
 甲。乙。を。考。へ。成。臣。の。名。八。十。
 四。州。五。畿。八。道。と。新。り。改。め。ん

定。ら。ま。し。天。命。
 今。上。帝。睦。仁。天。王。鳳。禁。を。
 武。苑。の。江。戸。少。強。め。玉。ひ。持。を。
 東。京。を。改。め。く。新。り。皇。居。
 を。白。丸。と。す。宇。内。新。採。の。政。
 文。武。昔。ふ。き。復。り。藩。治。乃。田

五畿内國



弊跡をえんぶて全國を有
 七十二の郡を置きて都
 鄙を造り王位を行のぬ
 なるを天子の類を造り
 そのありて

五畿内國

日本圖書卷一

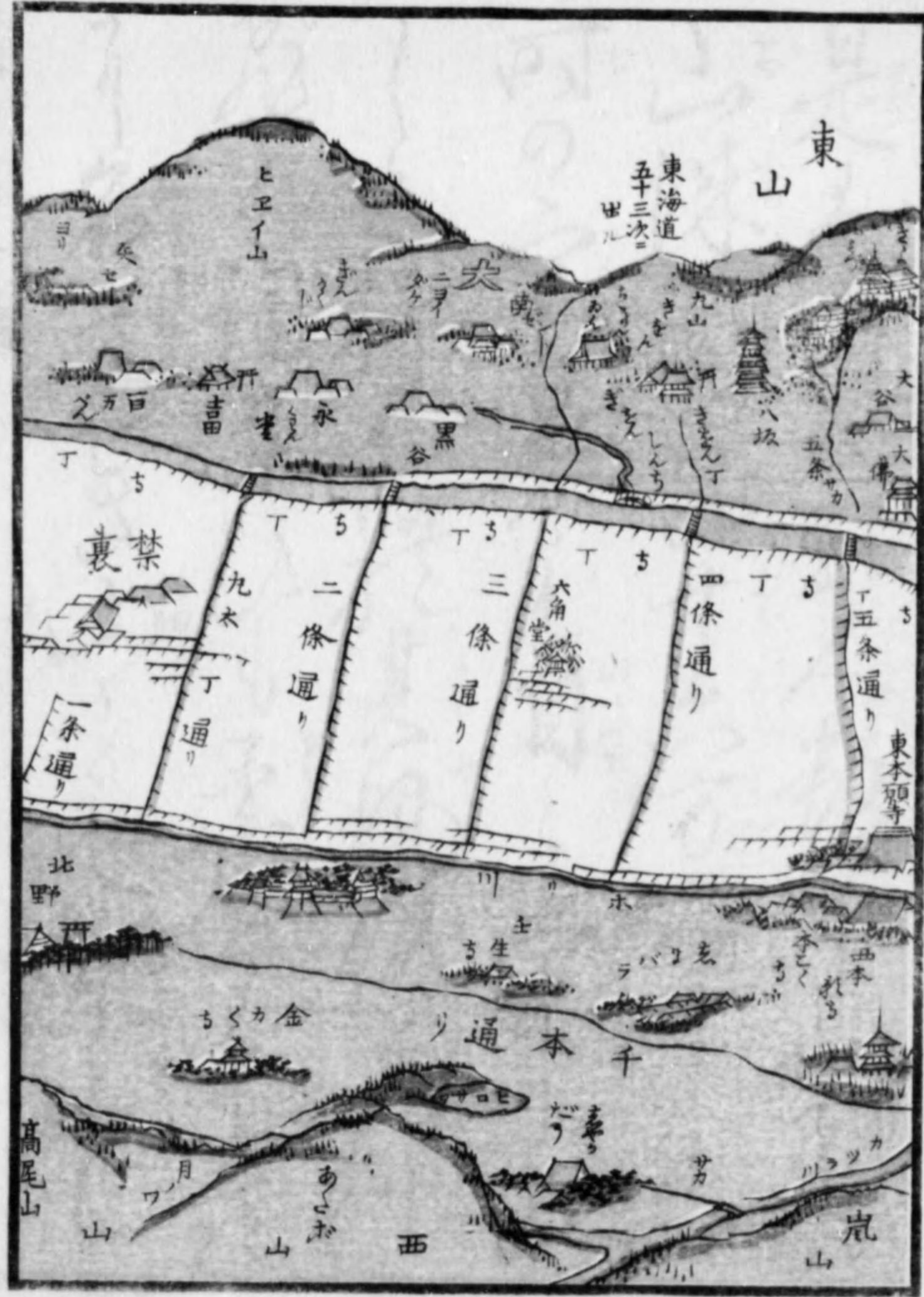
五、瀨内圖



名山城乃。京を越え、西を
 海、解の、方、陸地、なるも。
 一、東、山城、名、能、く、一、方、山
 一、其、一、正、園、一、海、一、國、の、其、
 一、ツ、古、田、を、低、く、水、田、を、中、
 一、少、平、地、の、一、如、京、一、昔、桓、武、姓

日本國書紀卷之二十一

京 都 府 図



日本国書目録卷二

帝より以來隆きく五朝
 由急今尚之を京都府と
 申して府政を置けり
 里。大道基盤の目乃ととと
 九條より分ちる外の中路支店
 其が村なる人三十七万余



四式林京

是を府内能人数も尤も
 山城一圍の四十万九千余回
 町の三々暑く自り帯ふ正
 しく行も程其風俗も都
 花く詞遣ひも柔なるも若
 く名首なるも山々も東山も

嵐山。愛宕。石。高。野。小。鞍。子。山。
續。木。鹿。の。川。も。鴨。宇。治。大。堰。
本。津。川。の。法。流。取。水。を。流。り
つ。る。綾。也。錦。小。絹。布。野。鴨。
川。野。友。仙。染。白。川。石。也。砥。石。野。
清。水。陶。器。宇。治。の。茶。是。を

此。地。の。名。産。物。を。京。都。府。
産。能。産。物。也。山。株。一。園。之。小。
又。丹。波。の。内。乃。三。郡。を。
二。小。大。和。も。三。津。山。海。部。
國。の。そ。の。三。ツ。今。より。二。千。
五。百。又。三。十。年。年。の。そ。の。昔。

神武天皇平定其東。累世の事。都の土地をまき。山陵をり。数おほし。其内。なまといふ土地。ふお色する。平地を。和銅三年より起す。天應延暦の頃。まが七十余。

年の。中。百。皇居の。あり。都。ゆき。とも。南都。と。名を。稱。大和。一。園。策。松。の。な。ま。良。お。所。の。存。り。あり。当。國。中。の。日。の。三。十。の。あ。七。百。人。國。の。廣。さ。ら。ぬ。東。十。四。の。あ。ま。よ。

南より水より至るを三千
里。其の候は山城。其
寒暑ともより溫和少
其風俗もおのほろ少
其まき所あるは國東南
山深く峯を重ぬる芳

那山櫻の名所海内一西少
葛城金剛山より物類
喜白山の茅野大和川
子菜のよみ田路より古物
今より尚然るは目を意
そのあたなり其産物いふ

長晒方那凍ふ油梅ま是
きそ名を得一佳おなる。
三河内をす山國海
有國の持たぬころ。東南
其大和の國紀伊の國と東
界して山國めと其の中

も。そのく平たき陸地なり。
西水流川流き東へ持岸
と家をおかち池沼水田
以多し。その流川の流き
晝の遠き事おたのむ。性
東の舟乃絶る方と。京よ

里橋津の大坂へ通る人
は水より便と求めぬ者共
有る此國の生の中も大和川
流き通るを諸の小川は
み西乃方橋津の海へ流き
行くに稍南狭山と云く曲

圃ふ海ぐ大池あり昔崇
祚帝の時に地り水の乏
きを憂ひ玉を堀りたり也
本朝池の始なるも國中廿一
万と云ふ九百の人口を東西
五里より南より十里の間に

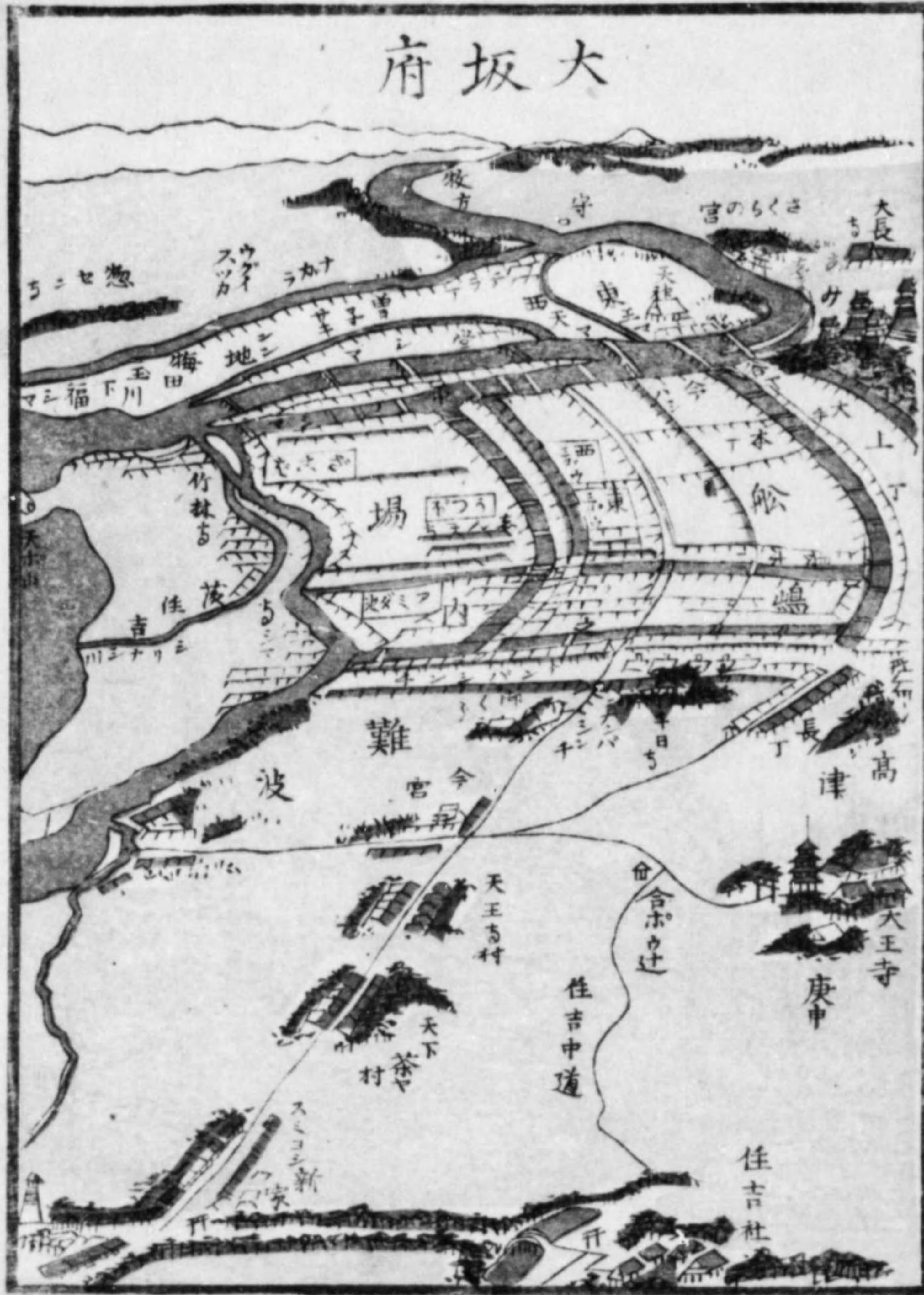
四里水也。上下男女。人抄。
たぐく。風候。柔積。柔く。この
下。元候。も。暖。柔。多。く。
と。そ。其。其。産。物。も。名。を。高。
き。河。内。本。綿。小。金。割。砂。
才。四。和。泉。も。東。南。下。り。山。

並。び。列。々。と。く。水。海。も。亦。
ち。從。み。國。中。平。原。又。多。く。
平。原。北。下。り。極。多。く。も。く。櫻。
い。つ。る。津。安。梨。栴。河。泉。は。
櫻。少。く。路。の。東。下。り。と。國。乃。
境。自。河。東。下。り。の。小。東。は。

河内水ヲ攝南ヲ乃チ和名
あり。中ノぶヲ堺縣ニ移
廳を立テ置テ河内ノ三
を全轄ス。一國人口二十
國の東西五里計。南
水十二里余。其條も河内

小美ら移ト人の風俗
義を。其産物を酒
と調。
才五攝津。畿の乾山城。
大和河内なる諸ありの水
土今流。南ヲ海ニ水

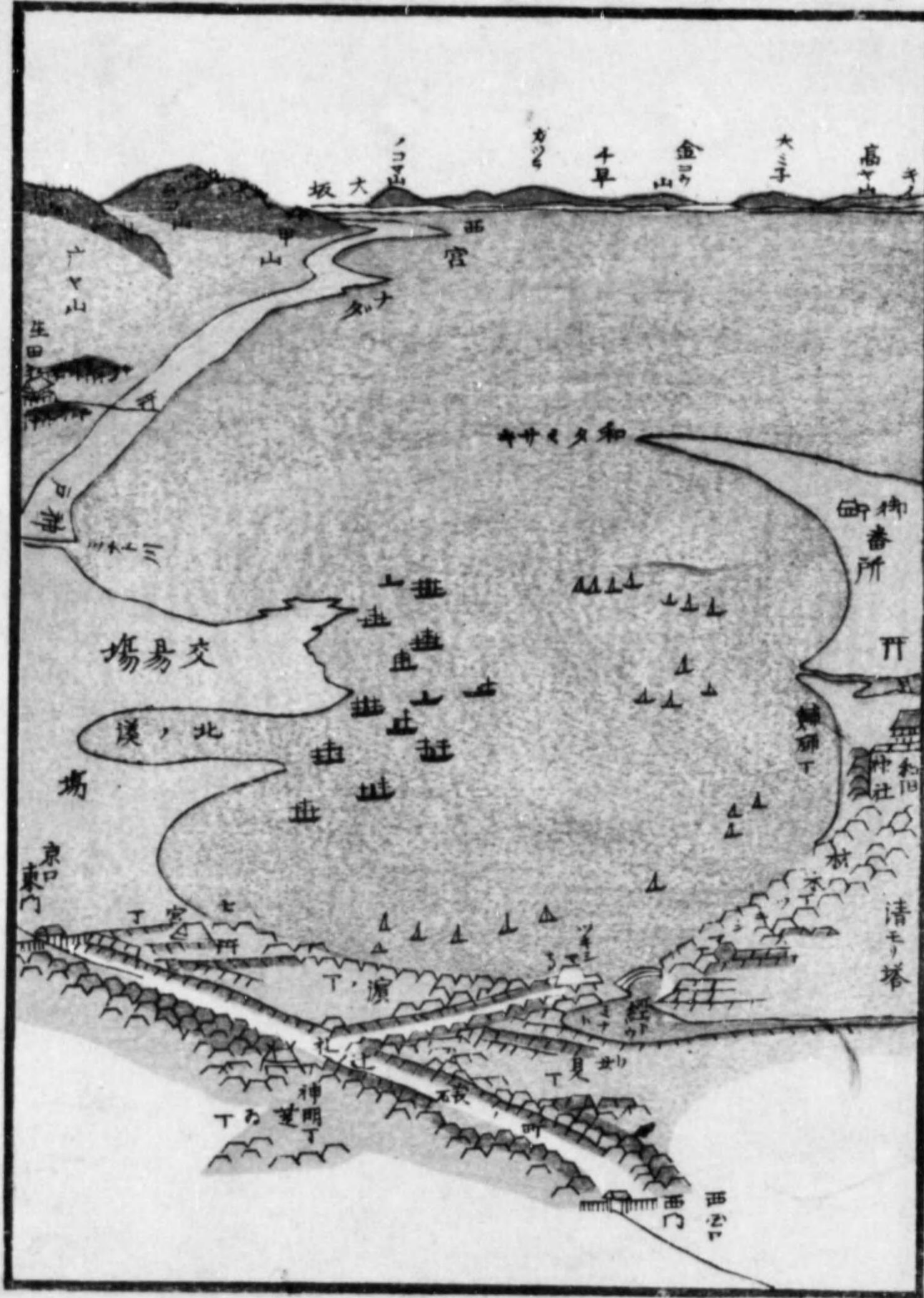
山古來の岨難波の津。
 実り字内乃咽喉也。
 出船入船絶會なる。精驛
 多敷の大港を冠する。大
 大坂府東西之京あり。互
 並び合せると箇の都と





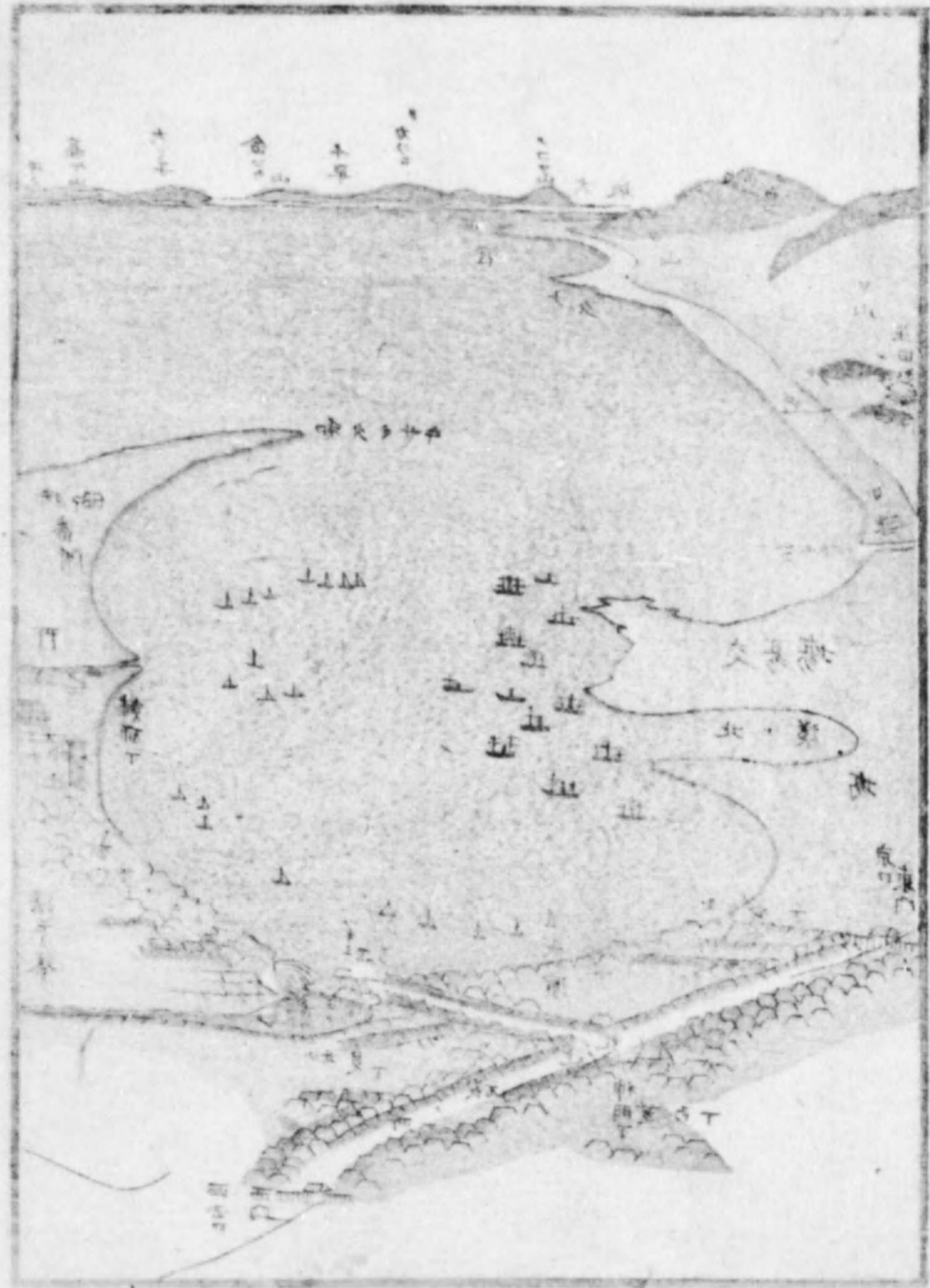
種一。富貴の二ありて
 生は。高貴なる者ありて
 と。通るは次を。善くして居
 留の。人。今。猶。多。く。造幣
 寮。小。金。銀。の。圓。を。仕。具
 幣。を。鑄。造。し。兵。字。寮。に

兵庫縣圖



日本國書卷一
 数千の陸兵枝を練
 る。又府邸の管轄を當
 國內に七郡あり。五
 郡の西の方十里隔たる
 兵庫と。其の陸乃爰
 輪あり。兵庫の陸を

兵庫縣圖



たる。神戸といつる一港
 へ。近來交易繁華の地
 居留此人も夥しく町
 極め々繁昌る也。此一國の
 人口七十八万九千余。土
 地は廣く東西也。

兵庫縣圖

十七

南みづ水みづも十五ご里りあり。四よ時じ
のと暑あつも暖だんおほく。玉たま
と風かぜもよ善よきおもえん。
人のひ氣き質しのて虚き禱たうして。
上下うみとしもんり飲いみし。
赤あかりせ緒いときし名な所ところもえん。

兵庫ひらのこ西しへり有あ馬ま山やま。痼こ
疾まをと愈いまと温い泉いあり。摩ま
耶やのや山やま。布ぬ引ひ乃の池い
のみ水みづのち終はえまをまるお
武む庫こ山やま神かみ峰みね山やま。儀ぎ剛ごう
松しょう風ふう須す磨まのの浦うら又また名な物ものの

品まがくる天てんの美び祿ろくの伊い丹たん
酒さけ礎いし堅かまま御ご影かげ石いし天てん王わう
寺てら菩ぶ菩ぶ池いけ田でん炭たんををああららまま

瓜生氏日本圖書卷一終

